

イスラーム研究者のためのブルガリア研究案内・書店案内 ——ソフィア市を中心に——

岩本 佳子*

(調査期間 2013年9月17日—30日)

東欧、バルカン半島に位置し、EU加盟国でもある現在のブルガリア共和国は、14世紀から19世紀にかけてオスマン帝国による統治下に置かれた歴史を持つ。この間に建てられたブルガリア各地のモスクやマドラサでは、アラビア語、ペルシア語、オスマン語で多くのイスラームに関するテキストが書かれ、収蔵された。

現在、ブルガリア国立図書館には、これらブルガリア国内に残るイスラーム関係の写本、刊行物のコレクションに加え、トルコのイスタンブール、アンカラに次ぐ規模のオスマン語古文書・帳簿のコレクション、カーディーによるシャリーア法廷台帳のコレクションが存在する。従来よりも体制や言語の障壁が低くなったことにより、近年、これらブルガリアに存在する、膨大なイスラーム研究にとっての重要資料へのアクセスが容易となった。

日本語で書かれたブルガリアの研究案内、特にイスラーム研究者向けの研究案内としては、管見の及ぶ限り、『内陸アジア史研究』に掲載された岡本氏の「ジョチ・ウルの外交関係にかかわる地域を訪ねて——黒海周辺5ヶ国紀行——」とNIHUプログラムイスラーム地域研究東洋文庫拠点ウェブサイトの長谷部氏による「ブルガリア共和国の文書館・資料館」の2つがあげられる。このうち、前者は、ブルガリアの研究施設についての記述はあくまで全体の一部である。後者は2013年2月と最近の調査であり、その詳細な内容はブルガリア国立図書館東洋部での研究案内として非常に信頼できる。ただし、書店の案内やブルガリア国立図書館の書籍・雑誌部については残念なことに言及がない。

以上の状況に鑑みて、甚だ簡便ではあるものの、ブルガリア語の知識をあまり有していないイスラーム研究者向けに、研究施設、書店、その他の事項について触れた、ブルガリアにおける研究案内・書店案内を公表する意義はあると判断し、拙稿を執筆した。既存の研究案内に屋上屋を架すままとまりのない拙稿を踏み台として、今後さらに詳細な研究案内や書店案内が書かれることを筆者は切に願う。

本稿では、必要に応じてブルガリア語での表記を示し、必要に応じてそのラテン文字転写（住所の場合は英名）を（）内に示す。またブルガリア国内のウェブサイトは2014年2月1日に再確認し、調査期間以後の変更を反映させた。

1. 国内概況

ブルガリアは、前述の通り500年近くオスマン帝国の支配を受けたため、各地にオスマン帝国やイスラームに関する史跡やモスクなどの建造物が存在する。しかしながら、現在のブルガリアでは、これらの史跡が十分に保存されているとは言い難い。2013年の調査で、筆者も先行研究で言及されていた史跡や建造物、建造物に付された銘文のいくつかがなくなっていることを確認した。

* 京都大学大学院文学研究科西南アジア史学専修研究生

ただし、スタラザゴラ、ハスコヴォ、シュメン、プロヴディフ、ヴィデインなどの都市には、14世紀にまで遡る建造物や銘文が残されている。

歴史博物館にもオスマン帝国やイスラームに関する展示は、民族復興期（19世紀）のものをのぞくとほとんどないか、あっても数点である（例えば、ソフィアの歴史博物館では、民族復興期を除くとオスマン帝国統治下のブルガリアに関する展示は棚3つ分しかない）。その中でシュメンの歴史博物館には、史跡や建造物から外されたアラビア文字銘文やオスマン帝国治下で発給された勅許状などが展示されており、見るものが多い。

シュメンの歴史博物館の例はあるものの、このようなイスラームに対する関心の度合からブルガリアにおけるイスラーム研究、特に文書資料・書籍の利用については首都ソフィア市が中心となる。利便性も考慮し、以下ではソフィア市の中央に位置する施設を取り扱う。

2. 研究施設

聖キリル・メトディ・ブルガリア国立図書館 Национална Библиотека Св. Св. Кирил и Методий (Natsionalna Biblioteka Sv. Sv. Kiril i Metodij) 略称 НБКМ

2-1. 概要

住所：бул. Васил Левски 88, София 103 (bul. Vasil Levski 88, Sofia 103)

開館時間：平日：8:30–18:00

土曜日：9:00–15:00（土曜日は資料の新規請求はできない）

日曜日、毎月の最終火曜日、8月は全日休館

電話番号：+359 2 918 3101 +359 2 843 5495 (Fax)

ウェブサイト：<<http://www.nationallibrary.bg/>>

ソフィア市のランドマークであるアレクサンダル・ネフスキ寺院の東、ソフィア大学の隣に位置し、ヴァシル・レフスキ大通り бул. Васил Левски に面する。市の中心部にあたる地下鉄セルディカ Сердика 駅から500メートル圏内。最寄りの地下鉄M1線、ソフィア大学・聖クリメント・オフリド斯基 Софийскиот универзитет Св. Климент Охридски 駅からは徒歩3分。駅の出口から後述のペンギン書店、マクドナルド、スーパーマーケット、ツーリストインフォメーションがある



国立図書館正面、聖キュリロス・聖メトディオス像

地下通路を抜けて、ソフィア大学を右手に見つつヴァシル・レフスキ大通りを直進北上すると、向かって右側に「キリル・メトディ人民図書館 Народна Библиотека Кирил и Методий」と人民共和国時代の旧称が大きく書かれた建物

が見えてくる(写真参照)。図書館の前には聖キュリロスと聖メトディオスの銅像が立っている。

その他、市内を走るトロリーバス 1, 2, 4 番でもアクセス可能。

2-2. 利用申請

身分証明書としてパスポートが必要。所属機関による推薦状、英文の身分証明書・研究履歴書があるとなお望ましい。

初めて入館する場合は、入ってすぐ正面の受付で利用者証を作成する。1ヶ月用で 10 レヴァ(以下 Lv.) (約 700 円)。受付に向かって左側のクロークで荷物やコートを預ける際に利用者証 контролен лист (kontrolen list) をもらうので、そこにクロークの札の番号、氏名 име、利用者証に記されている селия と no. を記入する。地階(日本でいう 1 階)の図書・雑誌閲覧室を利用する場合は 2 から始まる 3 桁の利用者番号、1 階(日本でいう 2 階)の東洋部の収蔵物を閲覧する場合は 3 から始まる 3 桁の利用者番号が発行される。利用者番号はクローク札の番号と一致しており、今日の利用先をブルガリア語でクローク係の職員に伝えねばならない。東洋部の収蔵物を閲覧し、続けて同日内に一般書籍・雑誌を閲覧したい場合は、クローク係に新たに利用者番号を発行してもらう必要がある。利用者証には、退館の際に、閲覧室で司書から印を押してもらったうえで出口の係員に提出する(昼食などで一時外出する際は不要)。資料請求や複写申請の際にも利用者証の提示を求められることがある。

2-3. 東洋部

ブルガリア国内から集めてこられたものと、トルコが古紙として売却したオスマン語文書を買収したものを中心に、イスラームに関するアラビア文字で書かれた(アラビア語、ペルシア語、オスマン語など)写本や刊行物、オスマン帝国の行政文書や財務帳簿といった古文書を収蔵する。収蔵資料については詳しくはブルガリア国立図書館の公式ウェブサイトを参照されたい。アラビア文字で書かれた収蔵写本についてはブルガリア語で書かれた写本目録がある。さらに、2013 年からは東洋支部所蔵アラビア文字写本の英語カタログ *Brief Catalogue of the Oriental Manuscripts Preserved in St. St. Cyril and Methodius National Library* の刊行が開始された。また、オスマン語文書の一部はトルコ共和国オスマン文書館出版部から出版された『ブルガリアにおけるオスマン文書 (Bulgaristan'daki Osmanlı Evrakı)』(2013 年現在、文書館出版部では在庫切れ、再版未定)やブルガリア国立図書館刊行の『ブルガリア国立図書館東洋部所蔵の交易、工業に関する 14-19 世紀のオスマン語文書カタログ (Опис на османотурски за занаяти и търговия (XVI–XIX в.) запазени в Ориенталския отдел на Народната библиотека Св. Св. Кирил и Методий)』で収蔵番号を付して紹介されている。この他、英語、トルコ語、ブルガリア語などで書かれたブルガリア国立図書館所蔵資料の紹介論考は多数ある。

クロークと反対側の階段を上がって右側にある廊下の突き当たりが東洋部の閲覧室になる。閲覧室は全 14 席。他にマイクロリーダー 3 台、パソコン 3 台が置かれている。コンセントが多数用意されており、PC、カメラの持ち込み可能。

初めて利用する際は、自身の身分、研究内容、ブルガリア国立図書館収蔵資料を研究目的で利用したい旨を書いた請願書(いわゆるトルコで言うところの dilekçe)をブルガリア国立図書館東洋部宛に書いて提出する必要がある。請願書は英語での執筆、手書き可。請願書の雛型があるのでそれに従って書けば問題はない。利用申請後、すぐに資料の請求、閲覧が可能。

閲覧室の奥にカード棚があるので、東洋部所蔵の資料はそれを見て請求する。一日に5点まで請求可能。刊行物、写本、文書ともに備え付けの請求用紙に利用者 *читател* の名前、書名・資料名と請求記号、日付、申請書の署名 *подпис* を書いて提出する。数日間であれば資料の取り置きも可能。文書資料の一部はカタログが作成されており、カード棚の下戸棚に収納されている。カタログには手書きのブルガリア語で、資料の請求番号、作成年代、地域、非常に簡便な内容説明が書かれている。

同館のオスマン文書分類は、大別すると4つのフォンド（文書類の大分類）からなる。一枚物の文書が収められたフォンドのカタログは計6冊で、下位分類は地域ごと。請求記号は Φ (F)。冊子型に綴じられた台帳のフォンドは、上述の文書館出版部発行のトルコ語カタログに全てが掲載されており検索は容易。請求記号は Δ (D)。ただし、 Φ や Δ 分類のみに文書や台帳が収蔵されているわけではない。この他、OAK や НПТА といったフォンドにもオスマン語文書や帳簿が収められている。OAK のカタログは計2冊で、請求記号は OAK (OAK)。НПТА フォンドのカタログはない。請求記号は НПТА (NPTA)。前記の文書館出版部発行トルコ語カタログや交易、工業に関するオスマン語文書カタログには Φ , OAK, НПТА フォンドに収められた一部の文書、帳簿の資料請求番号、記載内容、記載年などが記されている。

この他、シャリーア法廷台帳を集めたフォンドがあり、カード検索が可能。請求記号は P (R) および C (S)。先行研究などで資料番号が分かれば、カタログ化されていない資料も請求は可能。

トルコ語のできる職員として有名だった Золка Иванова 氏は残念ながら昨年退職されたが、現在は Стоян Шиянов (Stoyan Shiyanov) 氏が英語に加えてトルコ語を解する。

資料の一部はブルガリア国立図書館ウェブサイトの Digital Library (ブルガリア語版 <<http://www.nationallibrary.bg/cgi-bin/e-cms/vis/vis.pl?p=0038>>、英語版 <<http://www.nationallibrary.bg/cgi-bin/e-cms/vis/vis.pl?p=0192>>) で撮影データが無償公開されている。データの DL も可能。また東洋部のウェブサイト <<http://orient.ottomanist.info>> にはメールフォームがあり、英語での問い合わせも可能。

2-4. ブルガリア国内で刊行された書籍・雑誌の閲覧

閲覧フロアは地階にある。一部の書籍、雑誌を除いては閉架式。

前述の通り、利用にあたってはクロークで図書、雑誌を閲覧したい旨をクローク係にブルガリア語で伝え、2から始まる利用者番号を発行してもらう必要がある。番号の発行後、地階入ってすぐの大ホールで、備え付けの申請用紙に資料の請求番号 *сигнагура*、利用者名、日付、書名、必要に応じて著者名、刊行年、巻号を書いて渡すと、閲覧申請申し込みから30分から1時間ほどで、入ってすぐ左側の大ホール (No.4、No.5 閲覧室) で申請した書籍・雑誌が司書から引き渡される。

所蔵資料についてはカードカタログがある。また、ブルガリア国立図書館 OPAC <<http://www.bg.cobiss.net/scripts/cobiss?ukaz=getid>> へアクセス後、画面中央の Търсене (検索) タブをクリックすると蔵書検索ページに飛び、蔵書が検索できる。

2-5. 複写申請

東洋部所蔵資料の複写申請には司書に声をかけ、司書から受け取る複写申請書 (英文) への必要事項の記入と自身と東洋部長の署名が必要。複写を依頼する場合は1コマ3Lv、自分のデジカメで撮影する場合は1コマ2Lv。撮影は閲覧室で行うが、支払いは地階の会計室で行う。頼めば領収書もその場で発行可能。

一般書籍や雑誌の複写は、利用者証に司書の署名を記入してもらい、閲覧室外への持ち出し許可を得た上で、一階の複写室(コニカ・ミノルタの看板が目印、会計室の隣)に持ちこみ、複写係に複写してもらう必要がある。この場合の複写代は A4 一枚につき 0.1Lv。支払いは複写室でできるが、領収書を発行してもらうには会計室を通す必要がある。

2-6. その他

トイレは地下一階にある。入口から入ってすぐ、地階の大ホールの左側にトイレへ続く地下への階段へ通じる扉がある。トイレの場所の表示は特にされていない。

ブルガリア国立図書館館内にはコーヒーの自動販売機はあるが、本格的な食堂はない。図書館の周囲にも昼食が取れる店は少ない。セルディカ駅周辺、また大通り沿いには昼食がとれるレストランや軽食専門のピッツァリアがいくつかある。

地階には書籍販売部がある。詳しくは次章を参照されたい。

館内の司書の多くは英語を解するが、クローク係や複写係はこの限りではない。

3. 書店

ソフィアはブルガリアにおける図書の出版、流通の中心であり、多くの書店、古書店が存在する。いくつかの書店では、点数はそれほど多いとは言えないが、ブルガリア語で書かれたオスマン帝国の歴史やイスラームに関する書籍を見つけることができる。

3-1. ブルガリア書店 Български книжици (Bulgarski knizhitsi)

住所(事務所): ул. Юрий Венелин 44 София (st. Yuriy Venelin, 44 Sofia)

(店舗): ул. Аксаков 10 София (st. Aksakov, 10 Sofia)

営業時間: 平日 9:30–19:30 土曜 10:00–18:00

連絡先: 電話番号: +359 2 980 6950

Eメールアドレス: e-mail: office@knigabg.com

ウェブサイト: <<http://knigabg.com/>>

セルディカ駅から旧共産党本部を左手にソフィア大学まで続くツァール・オスボヴォディテル大通り бул. Цар Освободител 沿いにあるクリスタルガーデン Градина Кристал という小さな公園の裏、アクサコフ通り ул. Аксаков 沿いのラコフスキ通り ул. Георги С. Раковски と 9 月 6 日通り ул. 6-ти Септември に挟まれたブロックに店舗の入り口がある。歴史関係の本を中心にブルガリア語の書籍を多数販売している。

ウェブサイトからは販売書籍の検索ができるので、予め購入希望リストを作っていくことも可能。ただし、サイトにはブルガリア語ページしかないなので、利用にはブルガリア語の知識が必要となる。英語を解する店員が数名いるので非常に心強い。Eメールを通じて英語での問い合わせも可能。ウェブサイトを通じての通信販売にも対応しており、日本への発送も可能で、その場合の発送費は 5 キログラムのパケットで約 80Lv. になる。支払いは銀行振込みか PayPal、Western Union を通じた送金での決済となる(クレジットカードを通じての支払いは不可。後述するが、ブルガリアでのクレジットカード通用率は低い)。

3-2. ペンギン書店 Книжарници Пингвините (Knizharnitsi Pingvinite) ソフィア大学前支店

住所: бул. Цар Освободител 22 София (bul. Tsar Osvoboditer 22, Sofia)

営業時間: 平日 9:00–19:00

連絡先: 電話番号: +359 2 988 5055

Eメールアドレス: knigi_shop@abv.bg

ウェブサイト: <<http://www.pingvinite.bg/>>

ブルガリア各都市に支店を持つ書店チェーン。ソフィアでは、ソフィア大学最寄りの聖クリメント・オフリドスキ駅からのびる地下通路内に位置する支店が利用に便利。この他にもソフィア市内には支店が数軒ある。地階は新刊書専門でウェブサイトからの蔵書検索が可能。

地下1階には古書店が入っている。古書店の蔵書をサイトから検索することはできないが、品揃えはなかなか豊富。

3-3. 屋外古書店街

営業時間: 古書店次第。一部の古書店は土日も営業している。

セルディカ駅周辺の聖ネデリャ教会前の広場 пл. Св. Неделя からグラフ・イグナティエフ通り ул. Граф Игнатиев を通る 10, 12, 16 番のトラムヴァイ (路面電車) が停まるスラヴェイコフ広場 Площад Славейков 停留所に隣接し、ラコフスキ通りとソルンスカ通り ул. Солунска の間に挟まれた一角にはいくつもの古書店のテントが並び、屋外古書店街を形成している。観光客や学生向けの出物が多く、オスマン帝国史やイスラームに関する出物はあまり期待できない。

広場から G. イグナティエフ通りを挟んだ向かい側の建物奥には地図類を多く扱う書店や、Antiquarium 級の古書店がある。

3-4. ブルガリア国立図書館書籍出版部販売所

住所: ブルガリア国立図書館と同じ

営業時間: ブルガリア国立図書館と同じ。お昼時は昼食のため販売員がいないことが多い。

図書館に入っすぐの廊下、大ホールへ向かってその右側にある。ブルガリア国立図書館出版部から出版された本が販売されている。オスマン帝国やイスラームに関する書籍も数点販売されている。その場で支払い可能。

4. 移動

4-1. 国内移動

ブルガリア国内の移動はバスか鉄道が主流である。ソフィアと地方の大都市を結ぶ航空便の国内線もある。ソフィアでは中央バスターミナル Централна Автогара の公式ウェブサイト <<http://www.centralnaavtogara.bg/>> ではソフィア発地方都市行、地方都市発ソフィア行のバスの発着時刻や便数が確認できる。BGrazpisanie.com <<http://www.bgrazpisanie.com/>> では地方都市間のバスの便や鉄道、航空便の検索も可能。ソフィア発の一部バスは中央バスターミナルとソフィア中央駅間にあるトラフィック・マーケットから発着する。

ソフィアと地方都市を結ぶバスは、朝から夕刻まで一日数便出ており、特にプロヴディフやヴァルナといった大都市へは、早朝から深夜まで1時間間隔でバスが発着している。近隣諸国への国際バスも、路線にはよるが一日数便が就航している。上記のウェブサイトから便や発着時刻の検索が同じく可能。むしろ、近隣の地方都市間移動の方が、午前中や昼過ぎでバスが終わってしまうことがあり、移動に苦勞する印象がある。

4-2. 市内移動

ブルガリア国立図書館、中央バスターミナル、中央駅、ソフィア大学、ソフィア市の中心部への乗り入れは地下鉄が便利。M1 と M2 の2路線があり、セルディカ駅が乗換駅にあたる。

地下鉄以外には、市内をトロリーバス、バス、トラムヴァイが走っている。ただし、トロリーバス、バスは町の中心には乗り入れていない。

ソフィアでは公共交通機関の料金は前払式で、先にチケットブースで乗車券を購入してから乗り込む必要がある。トロリーバス、バス、トラムヴァイでは乗り込んだ後、乗車券をパンチすることが必要。パンチ不要の一日乗車券 *карта* もある。地方都市ではバスに乗り込んだ後、車掌に料金を支払う後払い式であり乗車券へのパンチは不要。

5. 本の発送

自分で発送する場合は、ソフィアの中央郵便局に持ち込む必要がある。航空便か船便の二種類で、5キログラムを境に郵便から小包となり、受付先も変わる。書籍割引はなし。市内には DHL など国際宅配便もある。

5-1. 中央郵便局 Централна пошта (Tsentrarna poshta)

住所：ул. Ген. Гурко 6 София (st. Gen. Gurko 6, Sofia)

営業時間：平日 7:00–20:30

土・日 7:00–13:00

連絡先 ウェブサイト：<<http://www.bgpost.bg/>>

セルディカ駅から徒歩10分、大統領官邸や国立考古学研究所附属博物館（元はモスク）の側に位置する公園の裏手にあたり、ソフィア・シティ・アート・ギャラリー Софийска градска художествена галерия がある G. グルコ通り ул. Ген. Гурко 沿いにある。

6. その他

ブルガリアでは若年層を除けばブルガリア語かロシア語が中心で英語はあまり通じない。北東部、南東部のテュルク系住人が多い地域では、トルコ語を解する人もいる。

ブルガリア国内は、各種表示や申請書もブルガリア語のみでの表記がほとんどであり、ラテン・アルファベットや英語の併記はあまり見られない。よって、最低限、キリル文字の読み書きができる事が望ましい。ブルガリアではキリル文字の斜体や筆記体に似た独自書体を立体でも多用するため、キリル文字の斜体や筆記体の知識があるとよい。

独自書体で大きく字形が異なる文字は以下の通りである。д → g のようにロシア語の斜体とも字形が異なり、筆記体にむしろ似る文字があることに留意。

г → z д → g л → l
и → u й → ū т → m

ブルガリア語の表記に用いられるキリル文字は、ロシア語の表記に用いられるキリル文字とはほぼ同数の30文字であり、特殊文字はないためにロシア語の知識があれば読み書きにさほど苦勞はしないだろう。

ただし、ロシア語では硬音記号である ъ は、ブルガリア語では a と u の中間よりもやや a に近いあいまいな音で読む(例えば、България は「バルガリヤ」と聞こえる)、джамя (モスクの意味) をジャミヤと読むように дж は2つの文字で1つの音ジを表す、などいくつかの相違点がある。

研究施設、書店でのクレジットカードや外貨での支払いはほぼ不可能である。私設両替商は多いが、特にソフィアでは買い取りレートが悪いことが多い。銀行での両替か ATM (壊れている、もしくはカードを受け付けないこともままある) の利用が比較的便利であろう。



独自書体使用例

7. 参考文献・ウェブサイト

Brief Catalogue of the Oriental Manuscripts Preserved in St. St. Cyril and Methodius National Library: volume 1 OR K 1-OR K 18, OR 1-OR 200, Sofia : St. St. Cyril and Methodius National Library Oriental Collections Department, 2013.

Bulgaristan'daki Osmanlı evrakı, Ankara : T.C. Başbakanlık Devlet Arşivleri Genel Müdürlüğü Osmanlı Arşivi Daire Başkanlığı, 1994.

Опис на османотурски за занаяти и търговия (XVI–XIX в.) запазени в Ориенталския отдел на Народната библиотека Св. Св. Кирил и Методий, София : Народна Библиотека Св. Св. Кирил и Методий, 1993.

Kiel, M. *Bulgaristan'da Osmanlı dönemi kentsal gelişimi ve mimari anıtlar*, Türkçe tercüme İ. Kolay, Ankara : T.C. Kültür Bakanlığı Yayınları, 2000.

Mijatev, P., “Bulgaristan'daki Osmanlı anıtları,” çev. Y. Yücel, *Belleten/Türk Tarih Kurumu*, L, 196, 1986, 291–313.

岡本和也「ジョチ・ウルスの外交関係にかかわる地域を訪ねて——黒海周辺5ヶ国紀行」『内陸アジア史研究』21, 2006, 97–106.

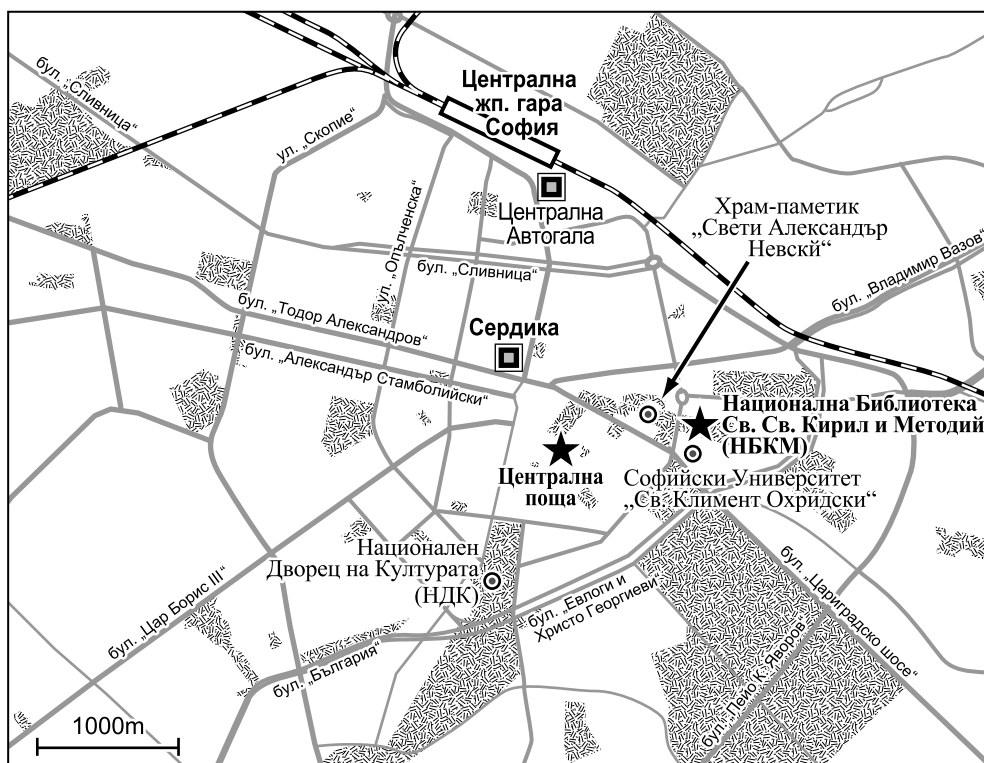
長谷部圭彦「ブルガリア共和国の文書館・資料館」NIHU プログラムイスラーム地域研究東洋文庫拠点公式ウェブサイト <http://www.tbias.jp/php/guide_detail.php?year=bulgaria#bulgaria> (2013年10月23日閲覧)

〔附記〕

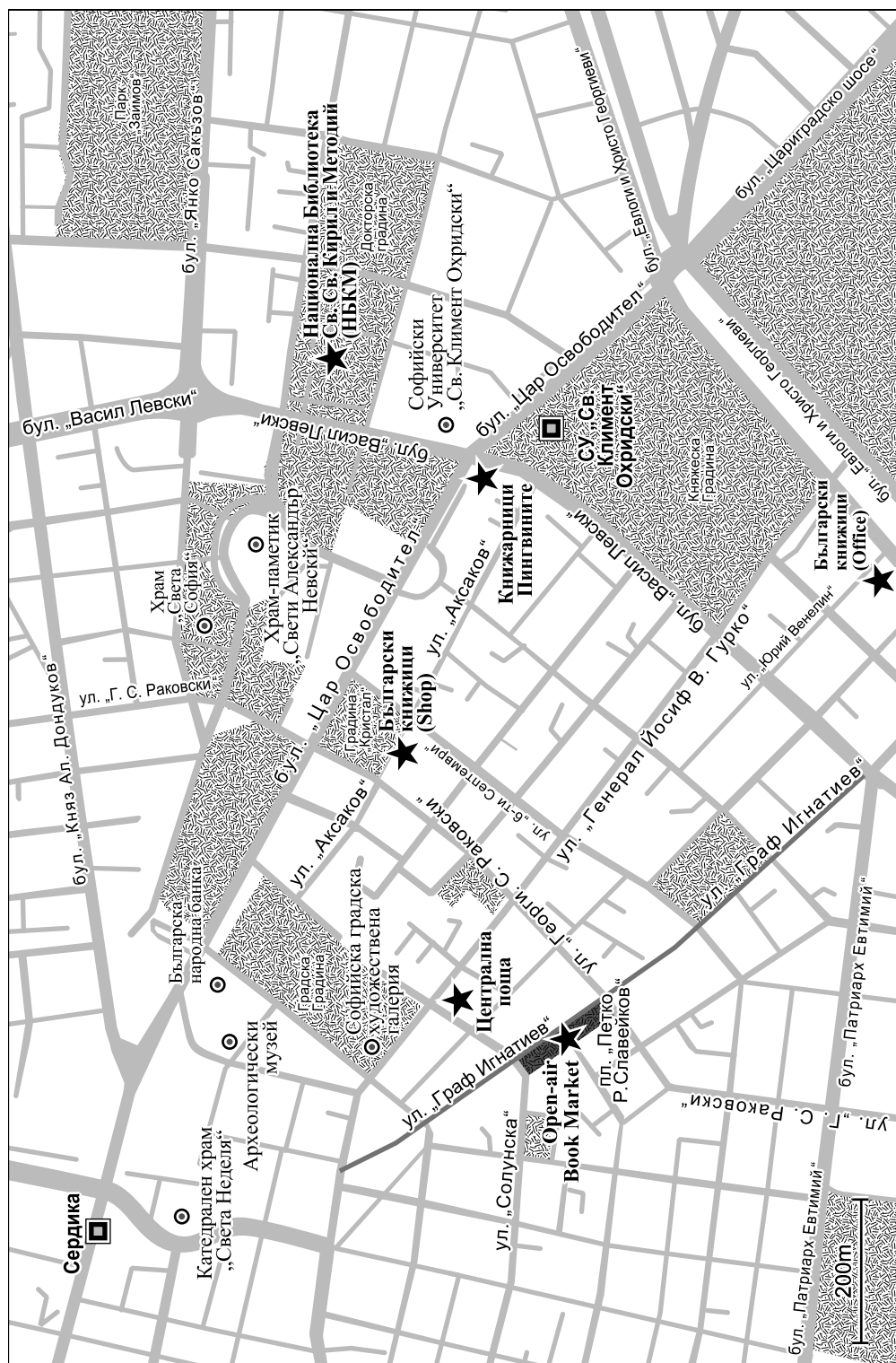
本稿の執筆にあたっては、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程の早坂由美子氏から貴重な情報をいただいた。記して謝意を示したい。



ブルガリア



ソフィア市中心部 ソフィア中央駅、中央バスターミナル、セルディカ駅、国立図書館



ソフィア市中心部拡大 地下鉄セルディカ駅からスラズェイコフ広場 (屋外公書店街)、ソフィア大学、国立図書館周辺